

2022年4月10日 礼拝説教要旨

詩編講解説教105「とこしえの契約」

詩編105：7～11、ガラテヤ3：26～29

詩編第105編にはイスラエルの人々が幼い時から伝え聞いている慣れ親しんだ話、民族の歴史が記されています。しばしば詩編はこういった歴史を取り上げますが、その歴史は単に過去にこういうことがあったという時系列的な出来事の羅列ではなくて、その歴史を絶えず導いておられる神さまの御業としての歴史であります。神さまはこの世界を造られたお方であり、歴史を始められたお方です。神さま抜きに歴史を語ることはできません。歴史の初め、天地創造から終末まで全てを支配され、完成まで導いてくださる神さまの救いを知ること、それがすなわち歴史を知ることです。

今、世界はパンデミックや戦争があつて歴史が大きく悪い方向へ動いているように感じる人も多いかもしれません。現実だけを見れば悲観的にならざるを得ないでしょう。でもそのように見える現実だけを見て一喜一憂するのではなく、どんなに傷つき破れた歴史であっても、神さまがこの歴史を贖い、最後は完成へと導かれる。教会はそのことを信じるのです。それは決して楽観主義なのではなくて、神さまの摂理を信じることによる希望です。たとえわたしたちがこの世界を諦めても神さまは諦めてはおられない。どんなに絶望的な状況でも、そこにも神さまの御手は届いている。そのことを信じるができる。それだけでこの世界を見る見方は大きく変わってくるのではないのでしょうか。

今日は7～11節のところを読みました。どうしてこの世界を神さまは諦めないのか。その答えがここにあります。そのキーワードがここにある「契約」(ベリート)という言葉です。この「契約」という概念は聖書ではとても大切な信仰です。例えば、旧約と新約の「約」は他でもない「契約」のことを指しています。古い契約と新しい契約。それが聖書です。全ては神さまと人間との契約なのです。そして神さまがこの世界をあきらめずに救われるのは、全てこの契約のゆえです。8節に「主はとこしえに契約を御心に留められる」とあります。「御心に留める」というのは、「覚える」「忘れない」ということです。最初に結んだ契約を神さまはいつまでも忘れられることはないのです。

ここにはアブラハム、イサク、ヤコブという名前があります。この三人の人たちがいわゆる「族長」と呼ばれる人たちでイスラエルにしてみれば、民族の「父祖」となる人たちです。この人たちと神さまは契約を結ばれます。その契約の内容は「わたしはあなたにカナン地の地を嗣業として継がせよう」(11節)というものでした。「嗣業」とは相続のことです。神さまはイスラエルとカナンという土地を相続するという契約をされます。この契約については創世記12：1～7、15：18、17：7～8のところにアブラハムと結んだ最初の契約が記されています。イサクに対しても創世記26：2以下。ヤコブに対しても創世記28：13以下、35：9以下にあります。つまり同じ契約を三世代に渡って更新されます。

ここで心に留めておきたいのは、通常、契約というのは、これを結ぶ両者が契約に対して誠実であることが求められます。例えば、最近、教会で工事がありました。壁の修理ですが、その場合も業者と契約をいたします。契約書に署名捺印する。この瞬間から、そこには義務が生じます。業者は誠実に工事を行うこと、教会はそれに対して代金を支払うこと。お互いに誠実に

その義務をはたさなければなりません。例えば、業者が手抜きをすとか、あるいは教会が定められた金額を支払わないということになると契約は無効、破棄されます。そしてどちらかが法的な処置をすることになってしまうでしょう。その関係は崩れます。

実は、アブラハム、イサク、ヤコブというイスラエルの父祖たちがこの契約に誠実であったかというところではありませんでした。これは創世記の話をお読みになるとよくわかることです。少しだけ紹介しますと、創世記12章にアブラハムとの最初の契約がありました。「あなたの子孫にこの土地を与える」(12:7)そこでアブラハムは祭壇を築いて記念にします。ところがそのすぐ後に12:10以下を見ますと、ここにアブラハムがエジプトに一時滞在したことが記されます。言わば、契約を破棄するようなことをする。「信仰の父」と呼ばれたアブラハムもまたわたしたちと同じ弱さを抱えております。イサクもヤコブも決して誠実とは言えない。ヤコブに至っては、父イサクを騙して祝福を奪い取ることさえいたします。族長と言われている人たちは決してそれにふさわしい歩みをしていただけではありません。だから神さまは同じ契約を繰り返しされたのでしょ。危なっかしいからです。これらの物語が伝えているのは、契約に対して誠実なのはただ神さまだけであるということです。人間はその時々状況に振り回され、簡単に契約を裏切るような不誠実なものなのです。それでも神さまはこのようなわたしたちを諦めずに、これに関わりをもたれます。

そして実に驚くべきことに、神さまはこの契約を新しく更新してくださいました。それがイエス・キリストの救いでありま。今日はガラテヤ書を読みまし。「あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です」(3:29)とあります。洗礼を受けてキリストに結ばれることによって、わたしたちはアブラハムの子孫となり、その契約の相続人になるということです。それは新しい約束の地、神の国という財産の相続人です。ペトロの手紙Ⅰには「あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいまし」(1:4)とあります。この神の国を相続する契約を神さまは結び直してくださいまし。

もちろんわたしたちも契約に対して誠実ではありません。繰り返し神さまとの契約を破り、これを裏切る者です。それはこの人類の歴史もそうですが、個々の小さな歩み、一週間の生活を振り返るだけでも明らかでしょう。でもそのために主が十字架におかかりになられたのです。今日から受難週が始まります。どんなにわたしたちが契約を裏切っても、キリストが命をささげてこれを贖い、これをとこしえの契約にしてくださいまし。その救いの上にわたしたちは神の国という最高の財産を受け継ぐことができたのです。